

## 音楽を通じて

私が初めて協力隊員としてエルサルバドルの地に降り立ってから 22 年が経とうとしています。

協力隊員になろうとした切掛けは色々な世界を見てみたいと言う好奇心からでした。それまでもカナダ、ヨーロッパなど一人で周った事がありましたが発展途上国には行くのは初めてでした。丁度それまで働いていた中学の音楽の教員の契約も終わりどうしようかと思っていた所に私の専門楽器であるオーボエの教師を募集している国があり、試験を受けエルサルバドルに派遣になりました。

語学などの不安が多い中他の 5 人の隊員と共にエルサルバドルに到着し、調整員に引きつられ職場の歓迎会にいきなり連れて行かれた記憶があります。若い日本人が来たとチャホヤしてくれ、スペイン語が未熟なのも気にもせず、いつも親切に接してくれました。



私達音楽隊員の仕事は、エルサルバドルのプロのオーケストラ (Orquesta Sinfónica de El Salvador) で演奏する事と国立芸術センター (Centro Nacional de Artes) で教える事でした。日本でプロのオーケストラはレベルが高くその中で演奏する事は無理なので、とても良い経験をしました。また、隔週でコンサートがあり色々な曲を演奏し、団員達との交友はとても貴重な体験でした。

ちなみに私はその団員の一人と結婚して 15 歳になる娘がいます。芸術センターでは純粹で素朴な生徒達に囲まれ、楽しかった事しか思い出されません。子供の吹奏楽のコンサートの企画そして実現に向けては、青年海外協力隊 (JOCV) の協力があったからこそできた事だと思います。あの頃は携帯電話やメールも無く、良く自分の家族に手紙を書いていました。電話など 30 分日本にすると 5000 円以上はかかっていたと思います。今、自分が親になってわかりませんが、両親はどんなに心配していた事と思います。

協力隊員としての任務が終わり 1998 年から私はメキシコシティに主人と渡り、運良く二人とも演奏家として生計を立てています。メキシコもエルサルバドルと同様、とても親日家が多く住みやすい国ですが、どこか素朴で真面目で人間性に溢れるエルサルバドル人と過ごした日々は、自分の人生の中で最も輝いて、最も他人の人情に触れた時期でありました。



練木 聖子(ねりき きよこ)氏

1994 年、青年海外協力隊音楽隊員として派遣される。音楽を通じて結ばれたご主人はトランペット奏者で、メキシコで夫婦そろって活躍中。メキシコ、日本、エルサルバドルを巡る多忙な生活を送っているが、エルサルバドル来訪の際は、旧友との交流とププサを食することは欠かせない。